



石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 櫻井 弘

令和5年6月12日

第3号

「主体的に学習に取り組むために」

主幹教諭 志手 伸圭

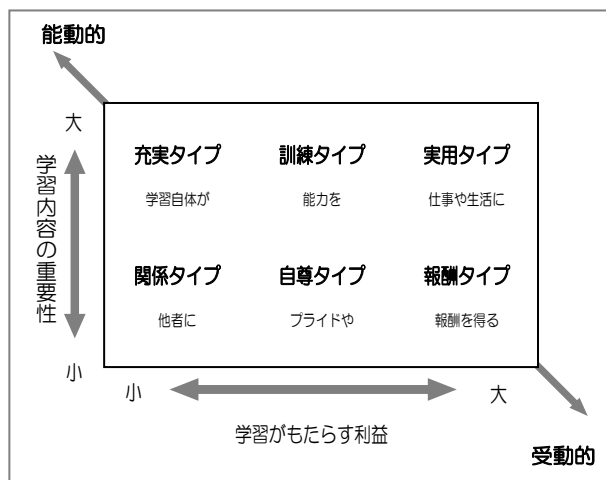
先日、体育祭が実施されました。コロナ禍以前の通常の体育祭の形に戻り、各学年の種目やリレー、大玉送りなど、大いに盛り上がり、大成功の体育祭だったと思います。この成功は、多くの生徒が前向きに「やろう」とした結果であり、皆さんの主体的・協働的な取り組みがあったからこそ、得られたものです。行事で得た経験を、それだけで終わらせないで、今後の学校生活や学習活動にも活かしてほしいと思います。



さて、もうすぐ定期考査です。皆さんは主体的に学習に取り組むことができているでしょうか。どうしてもモチベーション（意欲）が上がらないという人もいないでしょうか。では、どうすれば学習のモチベーションを上げることができるのか、そのヒントをお伝えできればと思います。

そもそも人はなぜ勉強をするのでしょうか？ 一般的には「社会に出て、生きていく力を身に付けるため」などと言われています。しかし、そんな一般論と個人の気持ちは別の問題です。学習に向かう理由は、人それぞれです。心理学の分野では、下の表のように、学習に向かう動機には6つのタイプがあるとされています。

学習の動機6タイプとその傾向



【充実タイプ】 「新しいことを学ぶことは楽しい」「活動自体が面白い」など、学習に充実感を感じるタイプ。学習の内容を重視していますが、学習によって利益を得ることは重視していません。学習内容が自分の好みに合ったとき、学習意欲を發揮します。

【訓練タイプ】 「頭の訓練になる」「能力を向上させる」など、学校での学習を他の場面で生かそうと考えるタイプです。学習の内容を重視し、学習によって得られる利益を間接的にイメージしています。自分の能力アップが期待できる場合、学習意欲を發揮します。

【実用タイプ】 「生活上必要な知識を得る」「将来の仕事に生かす」など、学習を有効に活用しようとするタイプ。学習の内容を重視し、かつ学習によって利益を得ることを重視しています。学習内容と実用性のイメージがぴったり合ったとき、学習意欲を發揮します。

【関係タイプ】 「みんながしてるから」「先生が好きだから」など、人間関係を学習の動機とするタイプ。学習内容を重視せず、学習によって得られる利益も最も間接的にイメージしています。学習意欲を人間関係に左右され、人間関係によって学習意欲を發揮します。

【自尊タイプ】 「人に負けたくない」「人より優れていたい」など、競争心によって学習するタイプ。学習内容を重視せず、人に勝つことで、立場上の利益を得ることを重視しています。競争心によって、ゲーム感覚で学習意欲を發揮します。

【報酬タイプ】 「おこづかいがもらえる」「ほめられる」「成績を上げたい」など、報酬と罰を学習の動機とするタイプです。学習内容を重視せず、学習によって得られる利益を何よりも重視しています。得られる利益が大きければ大きいほど、学習意欲を發揮します。

皆さんはどのタイプに当てはまるでしょうか？このうち1つが当てはまる人もいれば、複数当てはまる人もいます。自分のタイプを考えることができれば、どうすれば前向きに、効率良く学習に取り組めるのか見えてくるのではないのでしょうか。

私の場合、好きではない教科は、ただ単に「成績を上げよう」と思って取り組んでいたのが「報酬タイプ」に当たります。しかし成績はそれほど上がらず、前向きにはなれませんでした。今思えば、「成績を上げること」よりも大きな報酬を設定するか、または「報酬タイプ」とは全く別の動機をもてば、モチベーションが上がったかもしれません。

学習に対して、常に主体的に取り組めれば、こんな良いことはないだろうと思います。「学習の動機6タイプ」をヒントに、自分に合ったモチベーションの上げ方を見つけてほしいと思います。

参考文献：市川伸一『学ぶ意欲とスキルを育てる』2004、小学館